

【提出意見】

宮原 京子

＜評価について＞

基本的には事務局案が、これまでの課題を解決する方向であることは理解でき、賛同しております。したがって、以下の意見は、追加でのコメントとして、お伝えいたします。

教師が個々の生徒・児童のそれぞれの成長の可能性や課題に即して、これからの成長を促すための評価を行うことは重要ではあるが、経験やスキルの異なる人間のやることなので、多様な観点での評価は教師にとってもますます負担が増え、児童・生徒側の納得性を得ることも、ばらつきが生じると思料いたします。公平性の観点から、説明責任の観点から、また、最終的には評定によって、いずれにしても、保護者や入試に向かってある程度理解しやすいものをアウトプットしていくことについては今の教育システムを考えるとやはり避けて通れません。

デジタル化は、この複雑化する評価で、かつ、個々に合わせた指導を実現するために、評価材料を集めて一次的な分析を AI のモデルを通じて、教師への参照意見や助言を出していくなどの、教師への支援を実現できる可能性があります。もちろん、最終評価は教師が行うものの、そうした、AI などの活用も同時に進めていくべきではないでしょうか。

なお、参考までに、民間企業においては、採用やコーチング、評価などの面でも、各企業の企業目的に即した AI のモデルの活用が徐々に進んでいます。それにより、上司の個々の経験やパーソナリティでばらつく可能性が高い業績評価についても、徐々に均霑化されていくことが期待されています。学校のそれぞれの特色に応じたモデルの開発も、今後安価にできる社会が急速に整っていくのではないのでしょうか。